

## 千葉 ライフ・ライン ニュースレター No.116

【発行】千葉県テレビ伝道協力会  
〒260-0021 千葉市中央区新宿2-8-2  
CCCビル 「千葉ライフ・ライン係」  
TEL 043-247-3058 FAX 043-247-3072  
E-mail: [info@chiba.life-line.tv](mailto:info@chiba.life-line.tv)  
ホームページ <http://chiba.life-line.tv/>  
郵便振替: 00110 - 8 - 579669

【協力】財団法人 太平洋放送協会(PBA)  
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台  
2-1 OCCビル  
TEL 03-3295-4921 FAX 03-3233-2650  
E-mail: [mail@pba-net.com](mailto:mail@pba-net.com)  
ホームページ <http://www.pba-net.com>  
でんわ世の光 03-3291-9061

## 「未熟さ・弱さを共に担う視点」

日本アライアンス教団千葉キリスト教会牧師 山中 正雄

今年3月11日に発生した東日本大震災の被害の全容が、次第に明らかになってきました。死者、行方不明者、避難民の数の多さに驚かされ、心に湧き上がる悲しみを抑えることができません。幼子も高齢者も、被災者リストに加わっています。大地震、津波、原発事故というトリプルパンチに襲われ、日本全体が喪に伏すような時を過ごしてきました。うめき声をあげることしかできない私たちです。

なぜこんなことを神はおゆるしになるのか。未曾有の悲劇と向き合い、人類の歴史における意味を問わざるをえません。震災の被害を大きくした要因は自然災害だけでなく、原発事故という人災も併発したことでした。自然災害だけならば、復興に至る道はどれほどけわしくても、時間の経過と共に癒されていくでしょう。ところが放射線による健康被害は世代を越えて続くことが予想されています。これまで経済を優先し、安全性よりも安上がりな（炭酸ガスを出さない）電力供給を求めたつけを支払うことになったのでしょうか。

20年以上も前に福島第一原発に関わる作業中に、炉の内側を見たことがあるという男性と最近、出会いました。その時、炉はすでに老朽化しており、小さなひび割れがあったといいます。危険な場所で下請けの人々（彼もその一人です）が働くシステムが出来ており、彼自身も被曝手帳も交付してもらったとも・・・ものの豊かさを手にし、楽しんできた日本に住む私たちです。ところが、その生活の土台は危うく、もろいものであったことが露呈されました。私たちが安全に生きるためには何かを犠牲にせざるをえない、という現実を突きつけられていると思えてなりません。

また、かつて地質調査を職業として、今は牧師として教会に仕えている友人もいます。地震が多発するこの国で、原発を利用することはきわめて危険なことだ、と彼は主張してきました。日本中どこでも地震の被害にあう可能性があり、安全な場所など存在しないと断言しています。太陽エネルギーを利用した発電、雨水を直して再利用するなどの工夫をこらした教会の会堂が今、注目を浴びているようです。

目先の損得に目を奪われないこと、謙虚に人間の限界を自覚すること、その未熟さ・弱さを共に担うこと…。そうした視点に立ち、「ライフ・ライン」は福音を証ししています。人間の罪と弱さを包む神の憐れみを信じ、再生の道を歩みたいものです。

「神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。」

(第一コリント10章13節)